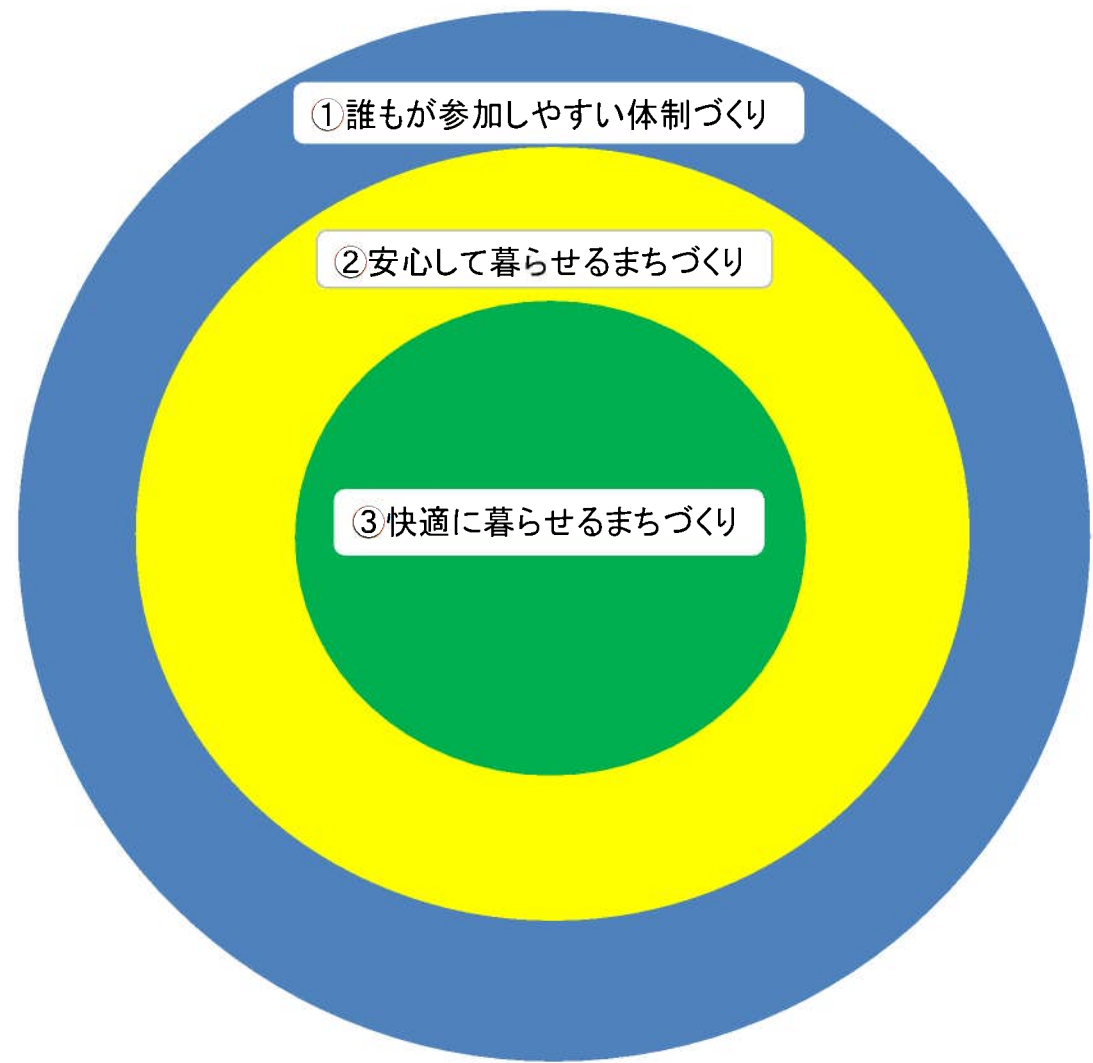


- ③快適に暮らせるまちになるには
- ②安心して暮らせるまちであることが重要で
その為には
- ①誰もが参加しやすい体制づくりが重要だと思います。



その中で、第2回資料における他自治体の取り組み事例の中から
個人的に気になったキーワードを抜粋してみました。

- 《気になったキーワード》
- (1) 誰かの役に立っている
→役に立ちたいと思っている人は少なからずいる。
 - (2) 公式LINE
→時代の変化に伴う連絡方法等への対応。
 - (3) web会議
→時代の変化に伴う会議のあり方。
 - (4) LINE WORKS
→時代の変化に伴う連絡方法等への対応。
 - (5) 飲み会を行わない
→子育て世代等への活動時間の短縮。
 - (6) ホームページ
→誰でも、どこにいても、情報の取得ができる。
 - (7) 自治会の運営マニュアル
→誰でも簡単に引継ぎが行える。役員負担の軽減。
 - (8) 事業の整理
→役員負担の軽減。時代の変化
 - (9) 葬儀参列の中止
→役員負担の軽減。事業の整理。
 - (10) 負担軽減化や役員の見直し
→役員負担の軽減。時代の変化
 - (11) 準会員制度(お試し期間)
→誰でも参加しやすい環境づくり。
 - (12) 共同共役
→事業の整理。未入会者への参加促進。

自分なりにまとめた結果、数多く出てきたキーワードが「**時代の変化**」・「**誰でも**」・「**役員負担**」・「**事業の整理**」となっています。

これらのキーワードを1つにまとめると「**時代の変化**に伴って、**事業の整理**をすることで、**役員負担**の軽減に繋がり、**誰でも**参加しやすくなる。」とも表現できると思います。

つまりは、今後の自治公民館活動において事業の整理による簡素化、役割分担の見直し(役員が行うもの、正会員全員で行うもの、非会員も極力参加するもの等)が必要になってくるのではないかと思います。

その中で、島根県出雲市直江地区の事例にある「**準会員制度**」と「**共同共役**」と言う考え方は参考になると思います。

事業の整理を行う中で、非会員を準会員とし共同共役の考え方に則った事業仕分けを行ってはどうか？

例えば
ゴミステーションの使用は分け隔てなく、全世帯が利用可能とし、その管理料を正会員は無料(自治会費で納入済)とし準会員からは一定額の徴収を行うものとする。
防犯灯の管理費など(誰もが必要なもの)も同様の扱いとする。

準会員は広報物の配布等の作業は行わなくて良いが、地域一斉清掃などの地域全体での行事には参加を求める。
やむを得なく不参加の場合、正会員を500円徴収とした場合、準会員は1000円の徴収とする。

島根県の事例を参考に、準会員から正会員に切り替わった場合は、一定期間の役員就任を免除とする。

準会員への広報物配布は原則行わないが、体育大会等の地域行事への参加は認め、広報誌等は地区の公民館に掲示することで、準会員でも知ることができるようにする。
ホームページも活用するとなお良い。

など

また、現在行っている事業の必要性および重要度をランク分けし、必要性・重要性の低いものは廃止しても良いのではないか？

SNS等、時代の変化に伴った広報活動等の見直しや、鳥取県米子市のような、行政と連携したホームページの活用により、誰でもいつでも知ることのできる環境整備が必要ではないか？
ホームページ上で各公民館ごとの行事日程や、会計内容を閲覧できるとなお良いかもしれません。
(各公民館からデータを送付することで、行政でホームページの管理運営ができないでしょうか？)

※ここからは自分なりの考えとなります。
正会員、非会員に限らず、公民館に行ったことのない人、どこにあるのかさえ知らない人は少なからずいると思います。
なぜなら、公民館に行く用事がないからだと思います。
行かないから興味もわかないし、何をしているかわからない
興味がないから広報誌に目も通さない、まさに昔の自分がそうでした。
何なら今ですら、行かなくてよいなら行こうと思いません。

逆転の発想になりますが、公民館に行く用事があれば場所も調べるし、行ってみればある程度何をしているかも知ることができます。

そこで、一定のルールの下、公民館内に誰でも無料で利用できるフリースペースのような場所を設け、高齢者は集まって井戸端会議をしたり、学生は落ち着いて勉強する場所としたり、こどもたちが安心して遊べる場所として提供するなど、普段から人の集まる場所として利用してはどうかと思います。

一人暮らしの高齢者等は集まることで会話が弾み、それ以外にも自宅のエアコン代等の節約などもできるかと思います。
その中で、集まってきた人たちに広報誌の折り込み等を手伝っていただくなど、業務支援のお願いもすれば良いかと思います。

山間部など、買い物や病院に行くにも不便な地区などは、定期的に移動スーパーや訪問診療等を誘致し、正会員であれば誰でも利用ができる仕組みづくりなども良いかもしれません。

その他では、時代の変化に沿ったイベント(行事)の見直しも必要かと思います。
世代間による生活時間帯のズレもあるとは思いますが、参加型イベントなども、日中は高齢者向けに体操教室等を開催し、夕方以降は子育て世代等に向けた住宅ローン教室や、NISAなどの財テク教室など若い世代が興味を持つような教室の開催があっても良いと思います。
また週末などは、家族で参加できるようなイベントを開催するなど、集まれる時間帯を考慮したイベントの構成は重要かと思います。

最後になりますが、今後、過疎化等で公民館の廃止・統合なども考慮しないといけないかと思いますが、時代の変化に伴って、事業の整理・見直しをしていく上で、自治公民館と言う名称の変更なども考えてみてはどうかと思います。
名前からくるイメージと言うものも少なからずあると思います。

自治公民館＝入るor入らない
のようなイメージを一新し

そこに住んでいる＝みんなが仲間
と感じるような名称を考えてみるのも良いかとは思います。

いろいろと勝手なことを長々と書きましたが、今現在で思いつくことを書かせていただきましたので、わずかながらでも議論の足しにでもなれば幸いです。